令和７年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２５０１０

プロジェクト名　-音、ひらかれるとき-耳でめくる音の物語を届けよう

プロジェクトの概要

本プロジェクトは、音楽家が主体的に表現できる場を構築し、聴衆が新しい芸術に親しむ契機を創出することを目的とした。芸術学部と文理学部の学生が協働し、朗読や絵本制作、映像演出を融合させた物語性豊かな演奏会を実施。世代を超えた鑑賞機会を提供し、地域文化の発展と感受性向上に寄与した。また、収益をエル・システマジャパンへ寄付することで次世代の音楽家育成を支援し、教育的・社会的な好循環を生む文化活動のモデルを提示した。(205)

プロジェクトの結果・成果

1. 事業概要

本プロジェクトは、音楽と朗読を融合した物語性のある演奏会である。芸術学部と文理学部の学生が主体となり、専門領域を越えた協働により既存形式にとらわれない表現を探究した。大学での学修成果を社会へ発信し、地域の方々が芸術文化に親しむ契機の創出を目的とした。

2. 企画コンセプトと演出の成果

『星の王子さま』を基底とするオリジナル台本を制作。観客を「不時着したパイロット」に見立てる没入型手法を採用し、朗読と音楽を有機的に構成した。「あなたにとっての薔薇を教えて」という問いを軸に、音楽・絵本・映像を通して目に見えない価値を多面的に表現した。

3. 実施内容と成果

2026 年 2 月 27 日の本番に向け、5 月より予算管理や楽曲制作、演出調整等を学生主体で進行。公演は管楽器専門店 Dac のスペース Do にて開催し、80 名が来場、チケット収益は 25,658 円となった。学部横断の連携により物語性ある舞台を実現し、協働を通じ実践的な合意形成力と専門性の深化を得た。

4. 文化進展および社会への波及効果

物語と視覚表現の融合により芸術への心理的ハードルを下げ、地域に新たな文化体験を提供。収益を一般社団法人エル・システマジャパンへ寄付し、表現活動が次世代育成へ循環する仕組みを実践した。映像化により継続的発信も可能とした。

5. 総括

本企画を通じ、表現を社会へ届けることの難しさと喜びを実感した。観客一人ひとりが「自分にとっての薔薇」に思いを馳せる姿は、芸術が持つ対話の力を再認識させるものであった。この経験を糧に、今後も文化芸術の担い手として社会に貢献できるよう研鑽を重ねていきたい。(666)

活動写真





